

【どうみん割事業等について】令和4年1月13日（木）食と観光特別委員会

道外では、オミクロン株の感染が急拡大しており、先週、沖縄県と山口県、広島県が、まん延防止等重点措置の適用となるなど、感染症対策が新たな局面を迎えています。

道内でも、オミクロン株の感染やその疑い事例が確認されるなど、本道においても感染の拡大は時間の問題と言っても過言ではない状況となっています。

そこで、現在、道が進めている『どうみん割』事業に関し、数点伺います。

（一） ワクチン接種等について

どうみん割事業に関する道の支援金交付要綱によれば、新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種完了者や検査で陰性が確認された方に限定して事業を実施していますが、最近の感染事例を見ると、2回目のワクチン接種を終えた方でも感染する例が目立っており、特に最近道外で急速に感染が拡大しているオミクロン株に対するワクチンの効果は従来株に比べ大きく低下するとする研究結果も発表しています。

また、国が先日定めた基本的対処方針では、ワクチン・検査パッケージと並んで対象者全員検査といった考え方も打ち出しています。

感染拡大時においても、社会経済活動との両立や観光需要の回復は大変重要

な課題であると考えますが、このような状況の中で、道は、この『どうみん割事業』を引き続き従来と同じような条件で実施していく考えなのか、あるいは、新たな状況に即した対応を考えているのか、見解を伺います。

(答弁：誘客担当局長 清水茂男)

・『どうみん割』は、国の補助事業を活用した観光需要喚起策であり、国の要綱に基づき、1月以降の実施においては、ワクチン・検査パッケージの活用を条件としている。

・また、国の要綱において、感染状況がレベル3相当以上と知事が判断した場合には事業停止とされているが、道独自の判断として、道内6圏域のうち、まん延防止等重点措置の対象区域を含む圏域で停止するなど、あらかじめ停止条件を定めている。

・本道においても新規感染者数が増加傾向となっており、道としては、国の補助事業におけるワクチン・検査パッケージの取扱いを注視しているところであり、国の動きも踏まえつつ、感染状況等を見極めながら、適時適切に対応してまいります。

(二) 今後の対応について

どうみん割事業は、国が行う GoTo トラベル事業を補完する取組と聞いていますが、国交大臣は7日の会見で、GoTo トラベル事業の再開は、感染状況が落ち着いていることが前提とし、再開時期を明らかにできないとの考えを示しています。

GoTo トラベル事業の再開に期待していた観光事業者からは落胆の声が上がっていると聞いています。

また、オミクロン株の感染拡大や、まん延防止等重点措置の適用が始まったことなどの影響で、予約のキャンセルも増えていると聞いています。

2年にわたって厳しい経営を強いられてきた観光関連事業者にとって、今回のオミクロン株感染拡大は、更なる困難をもたらすものと言わざるを得ません。

北海道の基幹産業として今後も大きな役割を果たしていくことが期待される観光関連産業の苦境打開に道がどのように取組んでいくのかが問われます。

道は、どのように対応する考えなのか、見解を伺います。

(答弁：観光振興監 山崎雅生)

・感染症の長期化により、道内の観光関連産業は、甚大な被害を受けており、まずは足元の観光需要の回復に注力するとともに、将来に向けた取組を進めていく必要がある。

・観光立国北海道の再生に向けては、大きく三つの観点から取組を進めていきたいと考え、一つ目は足元の『傷んだ観光関連産業の回復』であり、『どうみん割』など、国の補助事業などを活用し需要を喚起することが必要。

・二つ目には、ウィズコロナ・ポストコロナ期における『戦略的なプロモーション』であり、コロナ後に旅行したいという国内客。

そして、海外客へ北海道の築いてきたブランド力をフルに発揮し、プロモーションを行ってまいる所存。

・また、GoToトラベル再開時には、全国で観光客の奪い合いが起こると考え、北海道としてしっかり勝ち取りたい。

・三つ目には、ポストコロナを見据えた『北海道観光の高付加価値化』であり、アドベンチャートラベル・ワールドサミットを契機とした富裕層向け、長期滞在型の旅行商品を各地に浸透させるなど、道内での旅行の消費単価を押し上げ、地域経済に貢献する観光振興に取り組んでまいりたい。